

稲・大豆作情報 (NO. 9)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月25日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月20日 (平年より4日遅い)				8月4半旬は猛暑が続き、 気温・日照時間とも平年 を上回った。中晩生品種 の生育は平年並みに回復 しつつあるが、「さがび より」の分けつは平年に 達してない。 夢しずく： 出穂揃い期～乳熟期 さがびより：穂孕み期、 葉耳間長約10cm ヒヨクモチ：幼穂形成期 、幼穂長約20mm
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	86.4 95.3 (91)	345 418 (83)	14.8 15.1 (-0.3)	33.2 33.2 (100)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	74.0 76.8 (96)	594 522 (114)	14.3 15.6 (-1.3)	41.4 39.5 (105)	

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

「夢しずく」：穂揃い期～乳熟期を迎えている。高温強風時は湛水・深水とし、気象予報に注意し、水管理を行う。

「さがびより・ヒヨクモチ」：

穂ばらみ期～出穂期を迎え始めている。要水量が最も多い時期のため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。

※台風接近時に風が強い場合は、必ず湛水・深水とし、通過後は新しい水と交換する。

※また、台風8号の接近によりフェーン現象が発生し、乾いた熱風が吹き下ろすことで、非常に高い気温と乾燥をもたらす可能性がある。

出穂期～登熟初期はフェーン現象の影響が大きく、穂の水分が抜け、白穂が発生するなど障害が出やすい。

→ フェーン現象発生時は、湛水管理でこまめに水を入れ替え、水温・地温の上昇抑制に努める。

○今週の管理

【夢しずく】

- ・穂揃い期～乳熟期となっている圃場が多く、フェーン現象に影響が大きい時期である。
- ・水管理に重点を置き、根の活力維持と地固めを図る。

【ヒノヒカリ、さがびより】

- ・穂孕み期～出穂期を迎え始めている。
- ・穂ばらみ期～出穂期頃は要水量が最も多くなるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。

【ヒヨクモチ】

- ・幼穂形成期を迎えている。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月18～21日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月28～31日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月13日～16日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※高温がつづき稲体の消耗が激しい状況である。全量元肥施用田（一発くん）においても穂肥Ⅰ～Ⅱの時期にSPADで40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20kg/10a）施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

◆トビイロウンカ

- ・箱施用剤を使用した圃場でも発生がみられているため、必ず圃場の発生状況を確認する。
特に、ピラキサルト（トリフルメピリム）以外の箱施用剤や箱施用剤なしの一部圃場では、坪枯れの発生を確認している。
- ・発生状況を確認し、発生が多い場合は早急に防除を実施する。
- ・必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認する。（各地域及び圃場ごとに発生量が異なるため）
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。

※最新の飛来状況については、農業技術防除センターのホームページから確認してください。

農技防 HP 参照：病害虫情報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

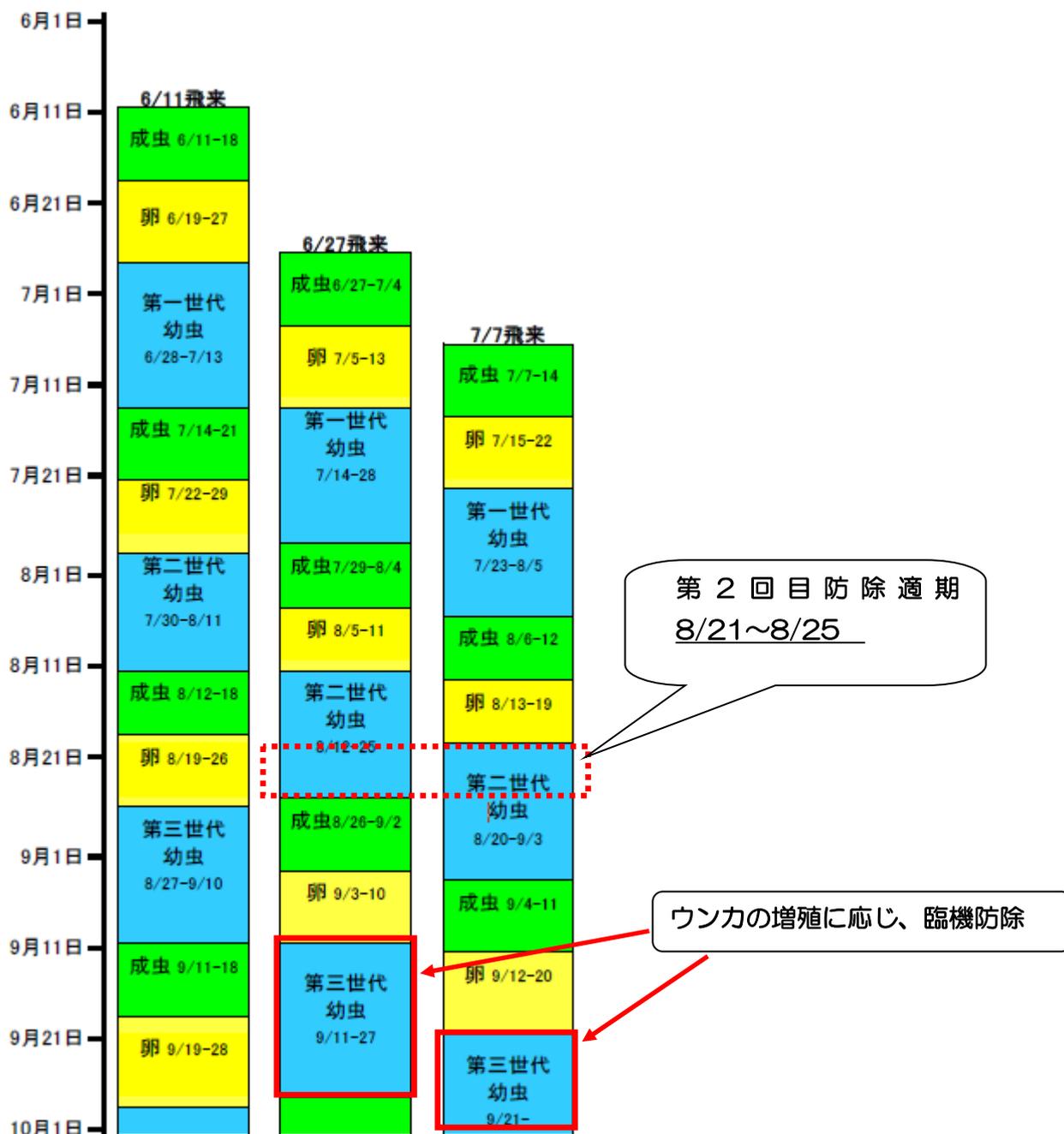


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第6版、2020年8月19日作成)

◆コブノメイガ

- ・箱施用剤を使用した圃場でも、コブノメイガによる食害痕がみられている。
- ・幼虫ふ化揃い期（下発生予測図の赤枠）の防除効果が高いため、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、適期防除を実施する。
- ・8月の発生量は、多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
農技防 HP 参照：発生予察予報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00373814/index.html>

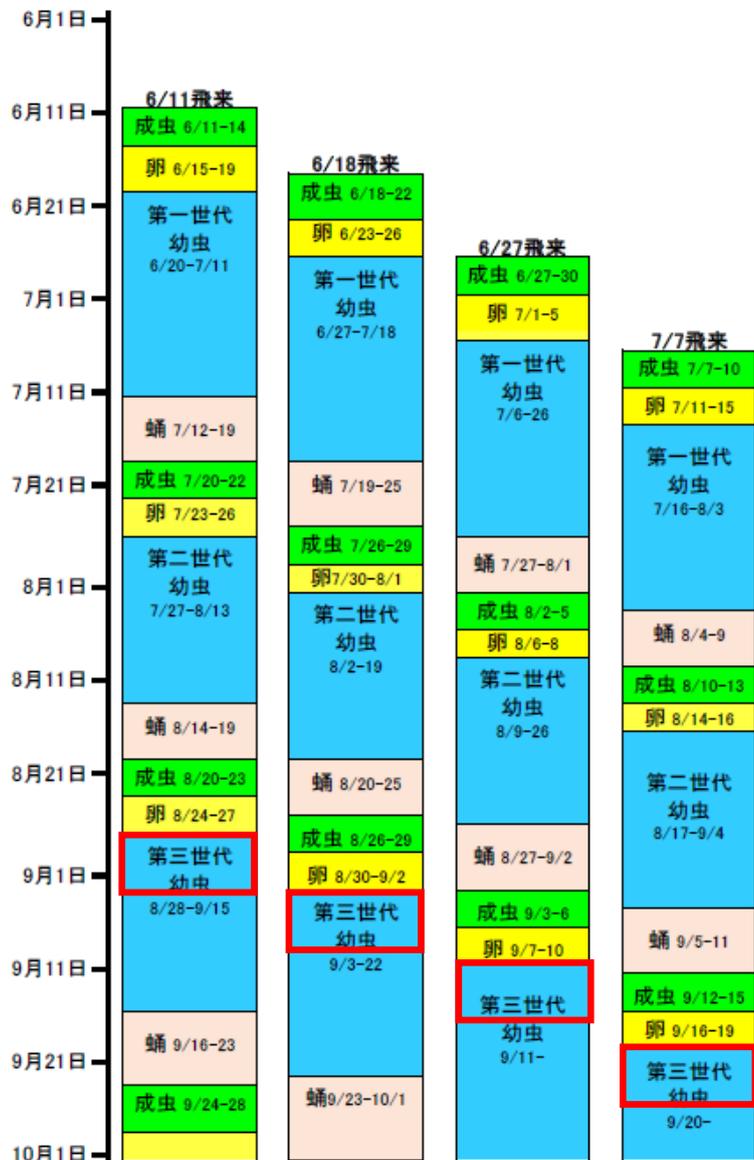


図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第6版, 2020年8月19日作成)

◆斑点米カメムシ類

- ・畦畔除草は出穂 10 日前までに行う。
出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂 10 日前までに草刈りを済ませ、時期を逸した場合には除草しない。
- ・8月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。

草刈りの時期 (目安)	斑点米カメムシ類の防除時期
ヒヨクモチ・・・8/30頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除 ◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

◆いもち病

- 8月の穂いもち発生量は、やや多い予測であり（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）、一部の圃場で多発生を確認している。
- 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
- 葉いもちの発生がみられる圃場は、穂ばらみ期（出穂3～5日前）を中心に防除を実施する。さらに、上位3葉に病斑が確認される場合は、穂揃い期にも薬剤防除を行う。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

◆紋枯病

- 一部の圃場で紋枯病がみられている。
茎数が増え、圃場内の風通しが悪くなり、気温が高く経過していることから、一気に進展する恐れがある。特に、建物の近くなど風通しが悪い圃場は注意する。
- 田回りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前が目安）に防除を行う。



▲紋枯病

3. 大豆管理

7月中旬に播種した圃場で、早いところでは今週から開花期を迎える見込み。
8月初旬に播種した圃場では、1度も培土がされていない圃場は速やかに作業を行う。台風やゲリラ豪雨に備えた排水整備をおこなう。

○排水対策

台風が接近しており、局地的なゲリラ豪雨に備えるため、排水溝の整備を行い、排水口への確実な誘導を図る。リターンデッチャや畔塗り機で施工した額縁明渠についても確実に繋がっているか確認を行う。

○培土

雑草防除や発根・根粒形成促進のため、以下目安を参考に培土を実施する。

【実施時期の目安】

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。



子葉

1回目の培土時期の目安

○雑草防除

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・カヤツリグサ科が多い場合は、大豆バサグラン等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

※7月中旬に播種した圃場は、まもなく開花期を迎えるため、大豆バサグランの茎葉散布は控える。

○病害虫防除

ハスモンヨトウ

高温で推移しているため発生がやや多いと予測される。圃場巡回を励行し、発生状況に注意し白変葉が見られた場合は防除を行う。

マメハンミョウ

一部の圃場で、局地的に発生し加害がみられる。早期発見に努めスポット的に薬剤散布する（マラソン等）。

